

膠着状態が続いてしまったケースへの 支援を振り返る

●事例提出者

Yさん

(地域包括支援センター・社会福祉士)

●司会

坂屋澄子さん

(アミューズ富永 居宅介護支援事業所)

●クライアント

本人 A氏・女性・78歳

長女 B氏・女性・56歳

長男 C氏・男性・54歳

◆提出理由

本人(母・Aさん)・長女(Bさん)・長男(Cさん)の3人家族。本人は精神障害があり通院中、長女は未受診ではあるが妄想・幻聴があり、昼夜逆転している。本人の年金で家族3人が生活している。キーパーソンである長男は、介護保険サービスや家族支援の受け入れができない。

「支援してほしいけど、支援してほしいくない」という長男の思いの裏側には何があるのか、どのように寄り添い支援することができたのかと思う。

◆事例の概要

古い家の中で家族3人で生活されている。Cさ

んのガードが固く、Aさんの生活が見えない。年金がなくなるとライフラインが止まり、Cさんは食事がとれなくなり痩せてくる。この数年のあいだ、近所の独居の女性の家にCさんがお金を借りに行くことが何度となく繰り返されている。女性は「数千円を渡すこともあるし、食べ物を渡すこともあるが、ちょっと困っている」と言われる。

私が訪問すると、必ずCさんが一人で対応する。事前に手紙を入れて訪問の約束をしておくと、待っていてくれる様子で、外門のところへ出てこられ、Aさんの病状やBさんの現状、Cさんの仕事のことなどを詳しく話される。いつも同じような話をされる。借金のことなど私が気になることを尋ねると素直に答えてくれるが、支援の話になると「病院のPSWに相談しているからいい」と言われる。しかし、PSWには「包括に相談しているからいい」と言っているらしく、相談員2人を上手にあしらっているように感じる。

◆紹介経路

H20年4月 民生委員より「Cさんが仕事もしないでAさんの年金だけで家族3人が生活している。近所の独居の女性のところにお金を借りに行ったらばかりで困っている。どうしたらいいだろうか」と相談があった。

◆クライアントのプロフィール

Aさん：裕福な家庭の一人娘として育ち、結婚後

も両親と同居（実質上養子のようなかたち）。子ども2人に恵まれ、真面目で頼れる夫と裕福な家庭の専業主婦として、両親や夫に守られながら生活してきた。16年前に夫が永眠。その際、夫が吐血したこともあり錯乱状態になりX病院を受診。その後、夫永眠のショックからか妄想・幻聴によりパニック状態となり、Cさんを保護者として医療保護入院となった。現在は、1カ月に1度の通院と薬を飲んでいる。

ADLはほぼ自立だが、下肢筋力の低下が見られ、Cさんに助けられながら歩いている。食事を自分で食べることはできるが、薬の服薬管理・調理など生活全般をCさんが介助している。

Bさん（長女）：56歳。未婚。若いときは勤めていたとのことだが、最近は引きこもっており、近所の方も見かけることがないと話される。1年ほどまえに近所の家に早朝勝手に上がり込み「オウムが私を呼んでいる。オウム。オウム」と空に向かって呼びかけるといことがあった。精神科は未受診。Cさんのガードが固く、会うことができない。Cさんの話では、昼夜逆転しており、Aさんに昔話をねだるとのこと。

Cさん（長男）：54歳。未婚。小さいときより、一人息子としてAさんに溺愛されて育った。父発病の頃、不動産業を友人と営んでいたが、バブル崩壊もあり倒産。祖父は地元の名士であり、父も大きな会社の重役まで務めた人で財産があったが、使い果たしてしまつて今に至る。

第一印象は、営業マンといったそつのない対応だった。優しい息子さんなのだろうと思つたが、時間を重ね介護に疲れた印象に変わってきた。無精髭を生やし、散髪にも行けないのか髪も伸び、衣類もいつも同じものを着て、どこか薄汚れている。時に臭うことがあった。

◆経済面

Aさんの年金：夫の遺族年金で月12～13万円。
BさんとCさんは無収入。Cさんは、会社倒産当

時の借金と税金の滞納、生活費などで数百万にのぼる借金がある。電話は止まっている。

◆住宅の状況

田舎の一軒家で近所と少し離れている。庭は草木が生い茂っている。外門のところに大きな鍵を掛けて、中に入られないように用心している。

◆初回面接の状況

H20年5月 民生委員と自宅を訪問。民生委員が「福祉の方」と私を紹介してくださる。

私「電気が止まって、暑いし困りますね。お母さんはどうされていますか？」

Cさん「親戚にお金を頼んでいるのが少し遅れているだけ。明日には届くから心配ない。母の介護も自分がしているから困っていない。仕事も来月からするようにしている。以前勤めていた会社から来てくれと頼まれているし、母も落ち着いているので大丈夫。困っていない」

民生委員「またそんなことばかり言つて。福祉の人だから相談すればいい。生活保護のこととか」

Cさん「困っていない。お金も明日には届くから電気代も払う」

私「Aさんにお会いしたいのですが」

Cさん「母は人に会うのを嫌がるし、家の中に入られても困る。おぶつて出てくるのも大変」

私「病院に行かれていますか？ 主治医の先生はどなたですか？」

Cさん「X病院。1カ月に一度通院する。来月の○日に行く予定にしている」

私「そのときにお母さんにお会いしたいので、病院に行かせていただいてもいいですか？」

Cさん「行けたら行くけど、調子が悪かったら行けない。来ればいいけど、約束はできない」

私「病院に行ってみますね。お会いできたらいいですね。何かあったら連絡ください」と連絡先を伝え、面接終了とした。

Cさんは、優しい息子といった印象。白のYシャツ姿で清潔な印象を受けた。

◆その後の援助経過

2カ月に1度程度、あらかじめ手紙を郵便箱に入れて訪問する日時を伝えておいて訪問する。特に変わったこともなく、徐々に悩みごとを話してくれるようになるが、支援の話になるとのりくらしとかわされる。

H21年3月 訪問。Cさんは風呂に入っていないのか少し臭う。無精ひげも生やしている。仕事のことを聞くと、「行くけどどうにもならない。仕事を待ってもらっている」。借金について「弁護士に相談しましょう」と言うが、「自分も知り合いの弁護士さんがいるから大丈夫」と言われる。

H21年4月 X病院のPSWと地域包括のアドバイザー会議でケース検討を行うが、支援方針は決まらなかった。今後も継続してかかわっていき、Cさんの変化を待つことになる。

H21年6月 訪問の手紙を入れたが、私が体調不良のため、訪問できなかった。翌週訪問すると、「どうしていたのか心配していた。声が聞こえたので急いで出てきた」と話され、「体調はどう？ 無理をしたらダメだ」とも言われる。手紙に『1年経ちました。最初の印象はとても優しい息子さんだと感じました。1年前の白いYシャツ

姿のCさんを思いだし、1年のご苦労が偲ばれます』と書いたためか、ひげも剃り、散髪もされ、清潔な衣服を身につけておられる。2カ月前に車の車検が切れているが、通院や買い物は大丈夫かと聞くと、「近所の方に車を借りている。大丈夫だ。金曜には病院に行く」と話される。(後日、X病院から通院があった旨の連絡が入る。ただし、通院手段は未確認)

7月に担当エリアが変更となり、このケースの担当からはずれる。

◆考察

Aさんの発症、会社の倒産、父の永眠、これらのことが一度に起きたことは、Cさんにとって大変な人生の転機となったのではないかと思う。

Cさんの「支援してほしい。でもしてほしくない」と関係者が感じる一歩踏み込めない現状は、Cさんのどのような心の葛藤から起こっているのだろうか。このことに寄り添うことができれば、Aさんの支援に届くことができたのではないかと考えながらも、一歩踏み込んで支援しようとすればするほどCさんに拒否されてしまった。Cさんに対して感じるもやもや感がなんなのか検討していただきたい。

ケース検討会

検討課題の設定

奥川 ありがとうございます。今日の事例検討では司会を現場のケアマネジャーの方に務めていただくことになっています。途中途中で私が解説を挟んでいくスタイルをとりたいと思います。では、坂屋さん、よろしくお願いします。

坂屋 今日の事例検討のファシリテーターを務めさせていただきます。水先案内人といった程度に考えていただければと思います。事例提出者のYさんと同じ仕事をしている仲間として、みんなで

一緒に考えていただければいいなと思っていますので、よろしくお願いします。

Yさん よろしく申し上げます。

坂屋 では、まずは今日の事例検討のテーマを設定したいと思います。いま事例の説明を終えて、改めてどんな点を検討したいかをおっしゃっていただけますか？

Yさん 地域包括支援センターの職員としては、本来はAさんにかかわらなければいけないのですが、ずっとCさんにかかわってきたような気がします。Cさんの本心がよくわからず、ドアをノッ

クし続けると少し開けてくれるけれども、「お邪魔します」と言うのとドアを閉められてしまう。Cさんは心を閉ざしているのか、開いているのか、Cさんの中で起こっていたことに触れること、気づくことができたらいいなと思います。

坂屋 ということは、今日の事例検討では、お母さんのAさんというよりは、息子さんのCさんを理解するためにはどうすればいいのか、という点を検討課題に設定してよろしいですか？

Yさん はい、よろしくお願いします。

坂屋 では、今日のゴール設定は、まずCさんを理解すること。Cさんの置かれている状況やCさんの気持ち、Cさんがなぜこのような行動をとっているのかを考えていきます。その上で、可能であれば今後の支援策を検討できればと思います。

奥川 今の進行で十分です。Yさんは担当を外れた後もこのケースのことが引っかかっているようで、自分で振り返り作業をしてみた。けれども、もやもや感の正体は何なのか解けない。そこで、他者の目を入れて一緒に検討してもらうことによってそのもやもやを晴らしたい。それがYさんの今日の要求課題です。実践の検証をするにあたって、多くの人の多角的な目、構造的な見方を通して深く振り返っていく。それがグループで事例検討をすることの意義です。

坂屋 今日のゴール設定ができました。Cさんを中心に、このご家族の置かれている状況、ご家族を取り巻く環境、Aさん、Bさん、Cさんがどのような人生を送ってきて今のような状況にあるのか。それを皆で共有していくために、Yさんに質問をしていただきたいと思います。どんな質問をすれば適切な情報を引き出すことができるか、10分ほどグループで話し合ってください。

[10分間、グループで討論]

Cさんの人となりについて

坂屋 では、質問をお願いします。

発言 Cさんはすごくかわいがられて育ったということですが、具体的なエピソードをお聞きになったことはありますか？

Yさん Cさんから直接聞いたことはないのですが、近所の方からは「本当に大切にされて育った息子だから、しょうがない。苦労知らずなのよ」と伺ったことはあります。

発言 Cさんの最終学歴はわかりますか？

Yさん ご本人から聞いたことはないのですが、高校卒業だと思います。

坂屋 そう思う根拠を聞いてもいいですか？

Yさん 近所の同級生の方が「Cさんは同窓会にしばらく出てない」という話をさせていました。

奥川 最終学歴を質問したのはなぜですか？

発言 この事例を見たとき、裕福な家庭に生まれて溺愛されて育ったCさんですし、支援者に対してこれだけきちんと話ができるということは、当然大学を卒業されているのだろうと考えたので、確認のつもりで質問しました。

奥川 そこはすごく大切な着眼点です。Cさんの年代で名士の家に生まれ、お父さんも会社の中で高い立場までいかれたというバックグラウンドを考えれば、大学卒を想定して当然だと思います。ここで大切になるのが事実確認です。「高校の同窓会に来ていない」という同級生の言葉は、必ずしも最終学歴が高校卒業だということを保証してはくれませんよね。

Yさん たしかに——。

奥川 実践を検証していくときには、正確に事実を押さえ、積み上げていくことが大切です。

Yさん わかりました。

発言 YさんはCさんのガードが固いとお感じになっているようですが、具体的な様子を教えてくださいいただけますか？

Yさん 一番印象に残っているのは、私が一度だけAさんにお会いしたX病院の待合室でのことです。採血を終えたAさんをCさんが抱えるように出てこられたのですが、私の顔を見てCさんはち

よっとびっくりしたような表情をされました。そのときCさんはAさんに対して、「何年か後にお母さんが倒れたりもっとひどい状態になったときに、この人に助けてもらおうと思って来てもらったんだ。今は大丈夫だから、別にこの人に助けてもらわなくても家族3人でやっていけるから」とおっしゃったのです。その言葉を聞いたときに、ああシャットアウトされたな、と思いました。

発言 一方でCさんが支援を求めていると感じられたエピソードがあったら教えてください。

Yさん かかわった当初は「別にあんたたちの世話にはならん」という感じだったのですが、手紙を入れるようになってから感触が変わってきました。あるときは「あなたからのラブレターを楽しみにしている」と言われました。私が訪問すると、必ず1時間から1時間半くらいは話をされます。嫌な相手だったら、待っていたように出てこられることはないだろうし、ましてそんなに長い間立ってお話をされることはないと思うのです。話の内容も「借金がある」とか「夜眠れない」とか「Bが夜中ずっとラジオをつけていて、自分も幻聴が聞こえるようになった気がする。これはどういうことなんだろうか」と尋ねられるなど、こちらに支援を求めるような口ぶりになることもありました。ただ、そこで具体的な援助に踏み込むとすると、「PSWに相談するからいい」とドアを閉じられてしまうのです。

発言 Cさんは結婚の経験はないのですか？

Yさん はい、ありません。

地域との関係について

発言 近所の方とCさんのご家庭はどのような関係でしょうか。

Yさん Cさんにとって近所の方は、お金を貸してもらったり食べ物をもったりする相手です。「おじいちゃんが世話をしてきたんだから、その恩を返してくれるのは当然だ。金がなくなったと

たんに皆そっぽを向いて、冷たい奴らだ」とおっしゃっていたことがあります。「母親にもしものことがあれば、近所の人に電話をすれば助けてくれる」と言われるのですが、実際にそういう方がいらっしゃるのかどうかはわかりません。私が訪問すると、みなさん遠巻きに見ている感じです。

発言 初回面接のなかで、親戚がお金を送ってくれるという話がありましたが、これはどういう事情なのでしょう。

Yさん Cさんのお父さんにはたくさんきょうだいがいらして、ご実家は決して裕福ではなかったようです。それで、お父さんを婿養子のように迎えるときの条件として、きょうだいを学校に行かせてやり、生活の面倒も見るということだったそうです。そのときにお世話になったごきょうだいのどなたかが送金してくださったようです。

発言 Cさんのお父さんはどのような方だったのでしょうか。

Yさん お父さんは地元では大きな会社の重役にまでなられて、地域でもとても信頼の厚い方だったと聞いています。Cさんからお父さんの話を聞いたことはありませんが、近所の方から「お父さんはCさんのことをとても心配していた。きちんと仕事をして、真つ当な人生を送ってほしいとおっしゃっていた」と伺ったことがあります。

発言 お父さんがご存命のときは、近所の方はこのご家庭に対して今とは違う印象をもっていたということでしょうか？

Yさん はい。Cさんのおじいさんが元気だった頃は、このあたりの土地一帯がCさんのお宅のものであったそうです。とても裕福な家で、みんなの憧れの的で、おじいさんは地域の人たちを助けた本当にいい人だったとお聞きました。そのおじいさんがAさんのことを心配して、お父さんを迎え入れたそうです。

坂屋 ここまでに出てきた情報を少し整理させてください。この家は、祖父の代は名士といってもよい土地持ちで、地域からの信頼も厚い資産家で

した。そこに生まれた一人娘がAさんです。このAさんのことが心配で、祖父はしっかりした婿を養子のようなかたちで迎え入れました。この方は大きな会社の重役まで務める真面目な方であった。そうした状況のあと、Cさんの代になったわけです。貯蓄や土地は今はどうなっているのでしょうか。

Yさん Cさんは「今は丸裸だ」と言われます。

一家の歴史について

坂屋 お父さんが亡くなられたのは16年前です。16年の間に貯蓄と土地はなくなり、借金がある状態になっています。この家に何が起きたのか、そのあたりを次に考えていきたいと思います。先ほどまでと同様、質問によって状況を浮き彫りにしていきましょう。

発言 Cさんのお父さんはどのような亡くなり方だったかおわかりですか？

Yさん お父さんはとても元気な方だったようですが、突然吐血を繰り返すようになって、そう長い間入院されることもなく亡くなられたと聞いています。そのことにショックを受けてAさんがパニック状態になったようです。

発言 CさんとAさんの親子関係を教えてください。溺愛されたということですが、Cさんが思春期の頃には離れることもあったのでしょうか。Aさんはどんなお母さんだったのでしょうか。

Yさん AさんとCさんはとても仲のよい親子だったということです。Cさんは特に反抗期というものなかったようです。近所の方が言われるには、Aさんは「白痴系の美人だった」ということです。

坂屋 いまYさんからとても大切な情報が出ました。再確認させてください。近所の方はAさんをどんな人だとおっしゃっていたのですか？

Yさん 「Aさんは、昔でいう白痴美人というのかなあ」とおっしゃっていました。

坂屋 これまでの情報と今の情報から推測されるのはどんなことでしょうか。Cさんの祖父は、知的に障害がある大切な一人娘と自分の家を守っていくために何らかの手を打たなければならないと考え、きょうだいへの経済的な援助という条件で、しっかりしたご主人を婿養子に近いかたちで迎えた、と推測できるのではないのでしょうか。

奥川 今の展開はとても上手ですね。司会の坂屋さんはこれまでに出てきた情報と新しい情報をつなげて、Aさん一家の歴史について一つの臨床像を描きました。私たちの実践では、臨床経験からくる臨床知と今のような情報と情報をつなげる類推能力、アナロジーの力が重要です。もちろん、類推した内容は必ず検証しなければいけません。次を続けてください。

坂屋 Cさんのお父さんが亡くなられたのは16年前です。そこから今、財産がまったくない状態になっています。この16年の間にCさんとこのご家族にどんなことがあったのでしょうか。これまでに出た情報をもとに、各グループで類推をしてみてください。

[10分間、グループで討議]

坂屋 では、発表をお願いします。

発言 私たちのグループで話し合ったのは、Cさんの仕事に関してです。友人と営んでいた不動産業は、友人が不動産関連の資格を持っていて、Cさんの財産が魅力で近づいてきたのではないかと推測しました。というのは、現在の暮らしぶりを見ると、Cさんは経済観念が乏しい方のようにすし、とても自分が主になって会社を切り盛りするタイプには思えないからです。そして、結果的に友人に騙されたか商売に失敗してしまったのではないかという話になりました。

坂屋 ほかのグループはいかがですか？

発言 私たちのグループでは、Cさんに反抗期がなかったという点が話題になりました。ひょっとするとCさんは敷かれたレールにおとなしく乗って、自分の生き方についての葛藤や自己決定をし

ないままきたのではないか。そのため社会的なスキルや対人関係のとり方が未熟なのではないかという意見が出ました。

発言 少し角度が違うのですが、名士といわれたおじいさん、会社の重役まで務めたお父さんを見てこられたなかで、Cさんはご自分なりに「Aさんとこの家を守らなければ」という長男としての意識を強くもっておられるのではないかという話が出ました。Yさんが訪問したときに戸口に立ってガードされるのは、長男として家を守っている姿勢の現れのように感じられました。

坂屋 ありがとうございます。みなさんが類推してくださったこととも関連するので、少し確認させてください。Cさんは不動産業を自営されていましたが、どんな事業内容だったかお聞きになったことはありますか？

Yさん 一度ご本人が「友人の話」として教えてくれたことがあります。都心のマンションを1部屋買って、1年後に売りに出すと300万円くらいの利益が出たそうです。それを同時に何部屋かで行き、何度か繰り返しているうちにバブルがはじけてしまって何千万円かの借金を背負った人がいるという話でした。「自分はそんなバカなことはしていない」とおっしゃっていたのですが、瞬間的な印象として、もしかするとCさんも同じようなことをされたのではないかと感じました。

坂屋 なるほど。バブルの時期に多くの土地を持っていて、それを担保にお金を作れる人がやっていたのは、いわゆる土地転がしですね。Cさんの場合もそれを繰り返しているうちにバブルがはじけ、資産がなくなって借金だけが残った。そういう状態が類推できるかと思います。これまでの情報をもとに、Cさんの力を再アセスメントすると、Yさんはどのように評価されますか？

Yさん Cさんには厳しい発言になってしましますが、Cさんがこのご家族のキーパーソンを務めるには力不足だなと思います。

援助の突破口を開くには

坂屋 では、次の展開ですが、現在Cさんは——長男としてAさんと家を守る気持ちからかもしれませんが——壁となって援助を拒んでいます。でも、そろそろAさんやBさんに何とか介入していかなければいけない時期が近づいているように感じられます。では、いまの状況のなかで、どのように介入していけばいいのか、実際の手立てを考えたいと思います。またグループで話し合ってみてください。

[10分間、グループで討議]

坂屋 これからAさん一家に实际的な支援を提供していくためには、突破口を開かなくてはなりません。どういう方法があるでしょうか？

発言 私たちのグループでは、Aさんが本当のクライアントなのはその通りだと思うのですが、まずは目の前にいるCさんへの援助を考えてはどうかという話になりました。Cさんは崩れそうな家を支えている文字通り「壁」として踏ん張っておられます。その頑張りのなかにはつらい気持ちもあるでしょうし、長男としての役割だと思っている部分もあるでしょう。そうしたCさんの気持ちを「わかっていますよ。私たちも一緒に支えていきたいのです」と気持ちを伝えていく。そこから展望が開けていくのではないかと思います。

発言 私たちは最初にYさんがおっしゃっていた、Cさんの「支援してほしいけれども、してほしくない」という気持ちを話し合いました。Cさんが支援してほしいのは、実はAさんを介護している自分に対してなのではないでしょうか。実際、Yさんが手紙のなかでCさんに優しい言葉をかけたとき、Cさんは動かれています。糸口はやはりCさんに対する支援なのかな、と思います。

発言 うちのグループも同様ですが、Cさんは家族のなかでとても大切にされて育ってきています。そして今、家を守っているのは長男としてのプライドだと思います。ですので、長男として家

族を守ろうとしているプライドを大事にしながら、「Cさんの困っているところをちょっとだけ手伝わせてください」という姿勢でかかわれば、心を開いてくれるのではないかと思います。

坂屋 ありがとうございます。みなさんのご意見をお聞きになって、Yさんのなかで納得したことや発見したことはありますか？

Yさん みなさんの意見を、本当にそうだなと思って聞かせていただきました。実は私もこれまで、「Cさん、とてもよく頑張られていますよね」とか「Cさんがいらっしゃらなかったら、Aさんはここまでよくなることはなかったかもしれないですね」と何度も声をかけてきたのです。でも、それらは私の心を通過した言葉ではなかったというふうに気がつきました。そのように言えばCさんは心地いいんじゃないかと、どこかで計算しながら言っていた言葉でした。Cさんの心に私の言葉が初めて届いたのは、手紙のなかの「1年のご苦勞が偲ばれます」という一文だった気がします。この言葉は、すごく考えて書いたものでした。Cさんの心に届く言葉を投げかけることができなかった私の思いの浅さが、Cさんが一生懸命家族を守ろうとしていることを「壁」と感じたり、「どうして心を開いてくれないのだろう？」というもやもや感につながっていたような気がします。（会場から拍手が湧く）

坂屋 Yさん自身がご自分の言葉で、感じていた「壁」がどのようなものだったのかをおっしゃってくださいと思います。では、援助者として今後何をしていけばいいのかをYさんから言っていたいただいてもいいですか？

Yさん はい。私は現在は担当エリアが替わったので、直接Cさんたちにかかわることはないのですが、今日の事例検討で私自身の心を通った言葉の大切さを学ぶことができました。また、地域のなかには、「昔とてもお世話になったので」と一生懸命支えてくださっている方もいらっしゃいます。ですので、一度私からCさんに「本当につら

かったですね。よく頑張ってきましたね。私はCさんのつらさをわかっていませんでした。Cさんが一人で頑張らなくても、地域の方が見守ってくれていますよ」とお伝えしたいと思います。そうすれば、Cさんは必ずわかってくださると思います。そこから何かが変わっていくのではないかと期待したい気持ちです。（会場から拍手が湧く）

坂屋 Yさんご自身がご自分の検討課題に対してきっちりと答えを出されたと思います。Cさんは一生懸命Aさんと家を守ろうとしている。けれども、残念ながらおじいさんやお父さんのような力はありません。そんなCさんを、これからは地域がサポートしていく。Yさんならきっとできると思いました。私からは以上です。あとは奥川先生、よろしくお願いします。

奥川 お疲れさまでした。今日の事例検討会は、Yさんと坂屋さんの力と、会場のみなさんの的を得た質問・助言により、とてもすばらしい事例検討になったと思います。今日のテーマであった、ファーストクライアントであるCさんのガードがなぜここまで固いのかを、Yさんはしっかりと理解されました。クライアントを本当に理解したうえで出てくる言葉は、必ず相手に通じます。そうやって、まず初めに情緒面の手当てをしないと、クライアントは現実を見ることができません。Cさんにキーパーソンとしての能力が不足しているのであれば、まずはCさんを支える必要があります。自尊のニーズと自己評価へのサポートを行い、情緒面の土台を整えた上で、現実に対処するための情報サポートを行っていく。援助者がこういうメカニズムを理解していれば、今起こっていることや自分がしていることを位置づけることができます。そうすれば、援助に迷う場面も少なくなるでしょう。いずれにせよ、とてもよい事例検討だったと思いますよ。お疲れさまでした。

Yさん ありがとうございます。

註 文中に今日差別語とされる表現がありますが、事例検討会の展開上重要な言葉であるため、あえて掲載しました。